

平成 28 年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育部会議事録

1 期 日

平成 29 年 1 月 26 日（木） 19:00～20:10

2 場 所

三木市役所 5 階大会議室

3 出席者

(1) 委 員

西馬英雄部会長、門廣文副部会長、田上由雄委員、金井拓郎委員、井上正夫委員、長尾恵猛委員、田口和伸委員、長谷川智世委員、岡本典子委員、丸畑護委員（欠席：岡田保委員）

(2) 事務局

永尾こども未来部長、横田学校教育課長、高谷青少年センター所長、坂田学校教育課副課長、横山教育センター副所長、北村学校教育課主査、阿部学校教育課主査、伊藤学校教育課主査、大江市民協働課長、岩瀬市民協働課主査、能出市民協働課主任、山城子どもいじめ防止センター長

4 開会あいさつ（永尾こども未来部長）

5 部会長・副部会長紹介

西馬英雄部会長、門廣文副部会長

6 委員自己紹介

7 協議事項

子どもたちのスマホ等インターネット端末の使用について

(1) 事例及び現状

- ・学校教育課より市内中学校ネット利用アンケート結果と取組説明
- ・青少年センターより取組説明

(2) 意見交換

部会長：さきほど、事務局より説明のあった中学校のアンケート結果、小中学校での取組、青少年センターより説明のあった活動についてのご意見、あるいは委員の方々が、普段感じられていることや学校、家庭、地域、それぞれがどのような役割を担っていけば良いかなどについて、意見や提案を出していただきたい。

委員：高校では、スマホの所持率は高くなっている。スマホの普及により、問題行動を表面的に起こす生徒が減ってきたように感じる。反面、大人から見えない所であるインターネットの世界でやり取りを行い、問題が表面化しにくくなっている。どんなことでも、LINE等のネット上で解決する。お互いの顔を見て、コミュニケーションをとって解決することが極端に減ってきているように感じる。また、就寝時間が11時以降になっている中学生が多いという報告あったが、高校生も同じ傾向である。学習時間をどうやって確保するのかが大きな課題であり、ネット上でのやりとりに疲れてしまい、学習時間が減ってしまっている。

部会長：高校では、ネットの使い方（情報モラル）についてどのような取組をしているか。

委員：保護者と一緒にスマホを使ってのネットモラル研修会を行い、ネットの危険を感じながら、使い方やマナーを学習している。

委員：人の目の垣根隊を発足時から行っているが、子ども達から元気ももらっている。スマホを使用することがないので、ついていけない。インターネットもほとんど使えないから詳しくわからないが、スマホを販売しているメーカーと提携して、有害なサイトにつながらないように規制をかけることが必要ではないか。子どもたちを守る良い方法があれば良いと感じた。

委員：小学生、中学生だけでなく大人でもスマホ依存になっている。ラインはずしやスマホ依存症が社会問題にもなっている。子どもたちにやめなさいというだけでなく、説得力がないので親も一緒に我慢する姿勢を見せることが大切ではないか。

委員：地域の子育てサークルでスマホの設定やネットモラルを学習した。「勝手に写真をとらない。」「フィルターをかけて使う。」ということを学んだ。昨年、子どもにスマホを持たせる時に、家族でルールを決めた。例えば、食事の時はスマホを見ないように。大人もそのようにしている。就寝時間が遅くなることのないように注意している。地域の子ども達にも子育てサークルで学んだことを伝えるように心がけており、スマホについても話をしている。これからも子どもたちの見守りを続けていきたい。

委員：最近の中学校の現状をつかめていないが、小学校や中学校の時からスマホの授業は大切だと感じた。

委員：小学生の登下校の見守りを続けている。自分自身はスマホ等を使ってインターネットを使用していないが、報道によると危険なこともあることをよく耳にする。小学校や中学校で実際、危険を回避する方法を指導していることを知り、少し安心している。

委員：ほとんどの親も子どももスマホを所持している。一番怖いのは、スマホ依存症だと思う。子どもには、なるべく使わないように声をかけている。友達や仲間と一緒に肌をふれあってつき合いをすることが子どもの成長にとって良いことであるが、これだけインターネットが普及しているので、インターネットと上手につき合うことが必要になってくる。学校や市教委で子どもたちに危険性を教えてもらい、子どもも納得してルールやマナーを守ることができるので、家庭でも見守っていきたい。

委員：ネットの世界はこれからますます広がっていくと思われる。広がっていくにつれて、使う子どもたちも低年齢化している。学校で使わなくても家で使っている子どもが多い。一方、スマホは大変便利な部分があり、大学生へ連絡する際には、グループを作ってすぐに連絡できるので、よく利用している。このような長所がある反面、ネットでの中傷やいじめなども起こってきている。子どもの使用の規制も一つの方法ではあると思うが、規制を行っても網の目をかいくぐって子どもへの危険が及んでくる恐れがある。そうすると、子ども自身が約束を守る習慣をつけることが大切だと感じる。小学生の時から、約束やルールを守る習慣を定着さ

せる。学習や研修を通して危機管理能力をアップさせる。自分で自分を守る等、三木市で行っているような取組が大切である。三木市では、発達段階に応じて丁寧に地道に行っているので効果があがっているように感じる。このような取組は子ども達だけでなく、パンフレットを作成するなど、大人や保護者や地域に広げていくことが必要だと思う。大人が自らルールを守り、身を以て子どもたちに示していくことが成果につながっていくのではないか。

部会長： 市教委が主催し、中学生を対象とした夏休みにネットサミットを行い、各学校でルール作りを行っている。神戸新聞にも採り上げられたように、ある中学校では、啓発のチラシを作り地域の方へ配布し、啓発している。また、保護者への啓発をねらいとし、日曜日に、保護者と生徒と一緒に学ぶネットモラル研修会を開催している中学校もある。三木では、小中学校、高校で学習を進めているので、それらの取組が根をはって成果が上がっていけば良いと感じている。

8 閉会あいさつ（副部会長）